

<7/18 被ばく車両K544 郡山総合車両センター移送計画>

7/18に勝田車両センターから郡山総合車両センターへK544の移送計画があります。郡山総合車両センターで働く全てのみなさんに、K544はどんな車両なのか、この車両をめぐって、これまでどんな闘いがされていたのかを知ってみたいと思います。

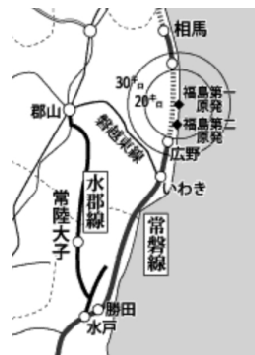
K544をめぐる闘いを引き継いで、郡山総合車両センターでも現場の声と行動を巻き起こしていきましょう！

※裏面には勝田車両センターの青年労働者のアピールを掲載しています。



勝田車両センターにあるK544

<K544車両とは…？>



この車両は原発事故から原発20km地点に7ヶ月間、放置され続けていました。常磐線久ノ浜-広野間の運転再開（2011年10/10）に伴い、勝田車両センターに強制的に移送されてきました（同年10/9）。

<動労水戸 被ばく労働反対ストライキ>

動労水戸という組合は、被ばく労働反対ストライキを闘い、K544の検修作業を阻止してきました。検修作業で多量の粉じんを吸いこむ内部被ばくの危険性があるにも関わらず、会社側は何の説明や対策も講じていなかったのです。動労水戸は青年労働者の命と健康のため、国、東電、JR資本の姿勢を絶対許さず、原発に反対していくためにストで闘い、現在に至るも作業を阻止し続けてきました。その結果、今度は郡山総合車両センターで作業を行わせようとしているのです。

労働者の安全なくして 鉄道の安全なし

被ばく車両（K544）移送反対!!

<K544の経緯>

- ・ 10/ 9 7ヶ月間広野駅に放置されていたK544勝田車両センターへ移送（2011年）
- ・ 10/10 政府の「安全宣言」を受け、常磐線久ノ浜-広野間の運転再開
- ・ 10/11 13日からの交番検査を発表（以降、阻止し続けられている）

<被ばく労働反対 動労水戸の闘い>

- ・ 10/ 8 第1波ストライキ（2011年）
- ・ 10/13 第2波ストライキ（同年）
- ・ 3/25 ストライキ（2013年）

※2012年8月には水郡線営業所運輸科で強行されたラジエター除染作業反対ストも大子支部で闘われた。



2011年10/18のストライキ



労働学校

3.11でつकんだ国家とは何か？

レーニン『国家と革命』を学ぶ

@福島市市民会館

とき：7/27（土）13時～

講師：斉藤貴広さん

（東日本大震災現地救援対策本部・事務局）

受講料：1000円

※終了後は福島市の花火大会に参加♪

本日の

ストライキ

<情報>

中国 広州中医薬大付属病院
非正規看護師 1カ月を超えるスト



正式な労働契約を結ばせない結果、10年以上も社会保険も住宅手当も支払わないことにたいして5/20～ストライキを実施

1人ひとりが職場の中で団結して闘うこと

けっして簡単ではないけれど 誰か一人が声を上げることで、
小さな火から炎に変わるはず 今こそ団結してともに闘いましょう！

照沼 靖功さん（動労水戸 組合員）



●人命無視する会社

私の職場は今、被曝労働反対で闘っています。会社は「年間20ミリシーベルト」の外部被曝の線量を基準に、被曝労働を強制しようとしています。しかし、最も恐ろしいのは、ホコリなどに含まれる放射性物質などを体内に取り込んでしまう「内部被曝」です。内部被曝すればいくら線量が低くても細胞が破壊され、体内からなくなるまで半永久的に放射線を出し続け、ずっと被曝させられることになります。

電車の床下というのはホコリやチリだらけで、1日中床下の検査をしていればマスクをしていようとホコリを吸い込まないというのは不可能です。うがいをするばつばは黒く、鼻をかめば真っ黒です。しかし会社は、マスクを用意する程度で、何の被曝対策も取らず、われわれ労働者に業務をやらせようとしています。会社は労働者の命を守るつもりなどないということです！

事実、先日の団体交渉では、床下の作業中にホコリを浴びて体調を崩した社員の健康調査すらも行わないと回答しました。「社員の命を考えていないということか」という追及に対し会社は、無言のまま何も回答できませんでした。要するに「会社のためなら社員の命など関係ない」ということです！ こんな会社の態度を許せるはずがありません！

私たちは、この事実をしっかりと現場労働者に伝え、職場の中からしっかり闘いをつくっていきます。

●新たな外注許さず

また、昨年10月1日の検修・構内業務外注化から9カ月が経過しようとしています。現場は何も変わってはいません。

外注会社の作業責任者は、受託業務の内容を把握してい

ないため、明確な作業指示も出せず指揮命令系統はめちゃくちゃです。現場労働者は怒りを乗り越えて、もうあきれきっています。こうなることは外注化以前から分かっていたことです。しかし会社は、この期に及んでさらなる外注化を進めようとしています。そもそも、国鉄分割・民営化以降25年もの間、民営化という大きな矛盾の中で業務が回ってきたのも、すべては「鉄道の安全を守ることに対する現場労働者のプライド」があったからこそです。営利優先で進めてきた結果が、05年の福知山線事故であり羽越線事故です。何かあれば、すべての責任を労働者個人に転嫁し、会社は何も責任を取ろうとしない。そんな中で福知山線事故は起きました。起こるべくして起きた事故です。二度と同じ事故は起こしてはなりません。

●労働者の団結こそ

民営化、外注化、非正規職化はすべて、資本主義社会の延命のためでしかありません。そこには安全とは正反対に営利だけを目的としている矛盾があります。その矛盾は現場で汗水流して働く労働者にすべてしわよせされてきます。徹底的に搾取され、生活もままならないどころか、結婚し子どもを産むこともできないほどの低賃金。いつ解雇されるかも分からず、何も言えず苦しむ非正規労働者。安全が破壊されても、人命が危機にさらされても、利益がすべてという民営化・外注化。こんな社会を変えられるのは労働者の団結だけです。闘う労働組合をよみがえらせ、1人ひとりが職場の中で団結して闘うこと、けっして簡単ではないけれど誰か一人が声を上げることで、小さな火から炎に変わるはず。今こそ団結してともに闘いましょう！